

2019年9月15日(日)／説教者：谷本 仰

説教：「みんな地の塩、世の光」

聖書：マタイによる福音書5：13～16

イエス・キリストは「あなたがたは地の塩、世の光！」と語りました。塩がなければ食べ物は味気なくて食べられたものではありません。そもそも塩分を摂らないと人間は死んでしまいます。イエスはあなたがたがいなくて、この世界は味気なくて食べたもんじゃないよ、それどころか死んじゃうよ、と語っていることになります。

光がなければこの世は真っ暗です。何も見えないし、どこに何があるのかもわかりません。イエスは、あなたがたがいなければ、この世界は闇、お先真っ暗だよ、と言っているのです。さぞかし立派な人たちに向かって言っているのかと思いきや、どうもそうでもないようです。イエスの弟子たちは失敗ばかりかえし、イエスが逮捕されたときにはみんな逃げてしまいました。イエスを裏切った者や、「イエス？そんなやつは知らん！」と言い張ったのもいました。そしてこの言は、弟子たちだけでなく、極貧の、患いや病、罪や穢れを負わされ、傷つき果てた大勢の人々に向かって語られているようです。

これらの言は山の上で語られています。山の上に立つと、自分が大きな風景の中に包まれていることが感じられます。また自分が歩いてきた道も振り返ることができます。「山の上」で人々は、神さまの視点からこの現実の世界や自分自身、人生を見直すことへと招かれている、と読めます。

神さまからみれば、裏切り嘘をつき、肝腎なときに大切な人を見捨ててしまうような者たち、罪やわずらいや穢れを負わされている貧しい人びとこそが、地の塩・世の光だ、とイエスは語っていることになります。「そうなりなさい」ではありません。あなたがたはすでにそうなのだ、とイエスは言っているのです。

イエスはこうした人びとを褒め、彼ら彼女らに感謝をしている風でさえあります。ひよっとするとイエスは自分自身を味付けし、必要なものを与え、自分を導いてくれてありがとう、とさえ言っているのかもしれませんが。人が元気になるのは、「ありがとう」と言われる側に立つときです。イエスはコレで、ぼろぼろの人々を元気づけたのです。

ありがとう、とイエスに言われて生きてみましょう。ちょっとこそばゆいですね。でもうれしい。思わずその気になって、そこまで言うならちょっと、塩や光として生きてみようか、という思いも湧いてきませんか？教会は、そんなイエスに乗せられた者たちの集いなのかもしれません。

この世界を味付けし、この世界の暗闇を照らす。もっとも傷つけられている者たちこそが、その役割を負う。イエス・キリストの十字架が、そのことを今日もはっきりと示しています。ともに歩いていきましょう。イエスに褒められて、ほくほくしながら。信じて、その気になって。(谷本仰)